



【令和8年度予算（案） 5,639百万円（ 5,622百万円）】

- 環境研究総合推進費 - 環境政策の推進に不可欠な研究開発を促進します。

1. 事業目的

気候変動問題への対応、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保など、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進を目的として、環境分野のほぼ全領域にわたる研究開発を実施（エネルギー起源CO2排出削減に直接資する研究開発等は対象外）。

2. 事業内容

環境研究総合推進費は、環境省の行政ニーズを提示して公募を行い、産学官の研究者から提案を募り、審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的研究費です。「環境研究・環境技術開発の推進戦略」「第6期科学技術・イノベーション基本計画」等を踏まえ、環境政策への貢献・反映に立脚した戦略的な研究開発、Society 5.0実現に向けた研究開発を強力に推進します。



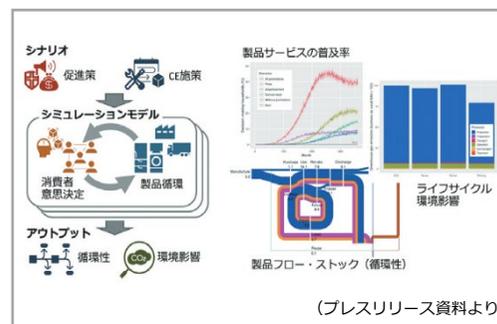
※ERCA：（独）環境再生保全機構

3. 事業スキーム

- 事業形態 競争的研究費制度による交付（配分機関：ERCA）
- 選択 大学／研究機関／民間事業者・団体／地方公共団体一般
- 実施期間 平成29年度～

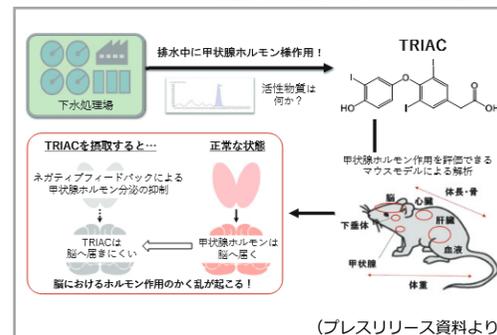
4. 研究開発成果の例

サーキュラーエコノミー（循環経済）の取り組みを事前評価する消費者行動シミュレーションモデルを開発



このシミュレーションモデルは、脱炭素・循環型かつ消費者にも受け入れられる製品やサービスの設計と、これを後押しする政策の立案に役立てることができるものとなっています。コンピューター上のシミュレーション実験によって、CEの促進策やボトルネックとなる事項などを、定量的に推計・検討できるようになりました。

甲状腺ホルモンアナログ TRIAC に注意 —新たな機序を介した内分泌かく乱作用を発見—



甲状腺ホルモン作用を評価できる新たなマウスモデルを開発し、TRIACは脳に移行し難い点でT3と異なることを突き止めました。今回の発見により、TRIACに着目した環境研究の進展が期待されるだけでなく、甲状腺疾患の治療へTRIACを用いることへの警鐘となると考えられます。